

医療コミュニケーション学・演習 (4年前期分)

科目責任者 町田 いづみ (医療コミュニケーション学研究室)

■ 教育目的

治療者としての認識を身につけ、向上させること。

効果な薬物的治療に必要なコミュニケーション・スキルを身につけ向上させること。

【卒業認定・学位授与の方針：YD-③、④】

■ 学習到達目標

- ・治療者としての適切な身なり、言動をもって医療面談を行うことができる (態度)
- ・双方向性の面談を通して、患者の全人的情報を収集することができる (知識、技能、態度)
- ・薬剤師として患者の立場や価値観に立って話を聴くことができる (技能、態度)
- ・患者の感情を感じとることができる (技能、態度)
- ・収集した情報をもとに、患者の全体像を適切に理解、評価することができる (知識、技能)
- ・理解、評価した内容をもとに、薬剤師として患者と共に効果的な治療プランを立てることができる (知識、技能、態度)
- ・患者及び他職種と薬剤師間で情報を共有することができる (知識、技能)
- ・医療面談の内容を適切に記録することができる。

■ 準備学習 (予習・復習)

復習：3年生での講義時に配布した資料をもとに復習する (60分以上)

予習：演習資料を熟読し、事前学習レポート課題にそって予習する (120分以上)。

■ 授業内容

演習形式：I IIとも、学生は薬剤師として1人ずつ患者のベッドサイドにて面談を行う。模擬患者は全てプロの役者とし、可能な限り実臨床に近い状況を設定する。

各学生の演習日は演習日程表に示す1日で (この1日で行う)。演習時間は13:10から課題終了までとする。

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	演習 I	①双方向性の会話を通して、患者のナラティブを理解し、医療者間の共通情報として適切に記述する。 ②患者の治療パートナーとして機能する。	A(2)-③-1 A(2)-③-4 A(3)-①-5~8 A(3)-②-2
2	演習 II	①患者の治療上の問題点を抽出し、適切な治療プランと治療的介入を行う。 ② POS に基づいて、治療経過を SOAP 形式で適切に記述する。 ③患者の治療パートナーとして機能する。	A(2)-③-1 A(2)-③-4 A(3)-①-5~8 A(3)-②-2

■ 授業分担者

すべての時間、町田いづみと白石奈緒美 (外部講師) により行う。

■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

3年生での講義への出席・態度=40% (計40点：欠席毎5点減/遅刻は時間により1-5点減)、予習復習課題 (10回=30点) と他課題 (2題=10点) の提出と内容=40%、4年生での演習 (出席は必須) =20% (ルーブリック評価) の総合点で評価する。

■ 参考書

事前配布資料

■ その他

演習日程は4年生への進級審査後に掲示する。